

1・22 ストップ! 辺野古新基地建設 大阪アウクシオン



一月二十二日の夕刻、中之島に約二百名の人々が集まり、西梅田までのデモの最終には二百五十名になったという大阪アウクシオンがありました。

先日の旗開きで有元さ

んはその講演で、年末の衆議院選は「新憲法ができてから史上最低の投票率（五十二・六％）だった。安倍政権が信任された訳ではない」と話されました。しかし、その安倍政権は特定秘密保護法の施行、集団的自衛権の行使容認など勝手に「戦争する国」を作ろうとしています。

一方、沖縄はどうでしょう。昨年一月の名護市長選、十一月の県知事選、そして十二月小選挙区選

の四人全員が基地反対を掲げて当選しています。安倍や橋下が言うているのとは全然違うほんまもんの民意が沖縄では明らかになっています。

にもかかわらず、辺野古新基地予定地の大浦湾（地球上で最も多様性豊かな生態系が残っていると言われている）では海上保安庁が抗議の力強い隊に暴力で襲いかかっています。キャンプシユワブゲート前では連日抗議行動が行われています。そのゲート前の歩道にはアングル鋼材の山側を上に向けて並べて作った鉄板が敷かれています。座り込みの人たちをそんな

地へたで抑え込もうとしているのです。民意が押し曲げられ、無法がまかり通る沖縄は日本とは別の場所のような気がします。いやむしろ、近い将来の本土の姿なのかもしれません。

「基地が来たら、戦争が来る」と沖縄戦を体験し、身近な人たちを殺され、自らも九死に一生を得た人々が抗議行動に参加し続けています。沖縄の反基地闘争は日本の戦争国化に抗う最先頭だとし、沖縄で起きていることを我が問題として捉えるそんな集会和デモであったと思います。

編集委員 T